

十月二十四日（金）第六十四連絡會議
十月二十五日（土）第六十一回連絡會議

國策遂行要領再檢討ニ關スル件

十月二十四日午後二時開會午後八時二十分終了十月二十五日午前
九時開會正午終了ス

第二問題「對米英蘭戰爭ニ於ケル初期及數年ニ亙ル作戰の見邊シ
如何」

陸軍ハ研究案ノ通り説明ス

海軍初期ハ大丈夫長クナレハ國際情勢ト國民ノ覺悟ニヨル海軍ニ
對シ所要ノ物資ヲクレト再三述フ

島田、賀屋 支那ノ戦面ヲ整理スル考アリヤ

坂田 ナルヘク戦面ハ保持シ度ク考ヘアルモ情勢ニヨリ整理ス、

特ニ北方起レハ整理セサルヲ得サルコトアルヘシ

杉山 南方作戦ノ大部ハ四―五ヶ月ヲ要ス

伊藤 海軍ハ六一八ヶ月ヲ要ス

(本件陸、海軍間ニ作戦の見解ニ相異アリシ如キ印象ヲ全
較ニ與ヘタリ)

三第三問題「今秋南方ニ開戦セハ北方ニ對スル關係的現象如何」

本問ニ關シテハ陸海外共ニ大同小異

戦争當初ヨリ積極の大攻勢ハナシ、然シ米カ「ソ」ノ軍事基地
ヲ利用スルコトアルヘク又「ソ」カ米英ニソソノカサレテ、策
動スルコトモアルヘシ、戦争水績セハ情況ニ依リ日「ソ」戦ナ
シトセス

三第四問題「船舶ノ消耗量如何」

陸軍ハ研究案ノ通り述フ

海軍ハ艦政本部總務部長説明セリ要旨左ノ如シ

新造ハ左ノ見込ナリ

第一年 四〇万屯

第二年 六〇万屯

第三年 八〇万屯

但次ノ條件ヲ必要トス

1. 所要資材ノ優先取得

2. 工作施設ノ損害確實補填

3. 輸送力勞力ノ優先取得

4. 造船機施設ノ充實

5. 陸軍ハ九〇万屯常備使用ニ低下スルコト

6. 船舶行政機構ノ一元化

7. 三千屯十二箇ノ標準型トシ多量生産ヲ可能ナラシムルコト

ト

例ヘハ六〇万屯ノ船新造ノ爲三六万屯ノ鋼材ヲ要スヘク海軍

モ別ニ相當量ノ鋼ヲ所要トス果シテ之ヲ許スヤ其他施設製造

所ノ擴張、工作機械ノ割當輸送力勞動力ノ確保等モ希望ノ通

リ之ヲ許スヤ

東條 大体ノ造船能力如何

總務部長 大体第一年 四〇万屯

第二年 六〇万屯位

島田 若イモノハ樂觀ニ過ク 海軍艦船ノ修理モアリ造船ハ極

務部長ノ述ヘシ半分二〇万吨一三〇万吨ナラム

其第五問題 主要物資ノ需給見込

企畫院研究案ヲ説明ス

賈原 予算ヘ物ト勞力カ出來レハドウテモナル

戰爭遂行上國民生活ヲ維持シ 且第二代國民ノ育英ヲヤ

ルコトカ出來レハ心配ナイ

占領地ハ銀行ヲツブシテ軍票ヲヤレハ可ナリ

支那ト異リ案外安イ

島田 海軍トシテハ 十七年九四億

十八年九五億

以後 毎年一〇〇億

ノ予算ヲ要スカヨロシイカ

六本日迄ハ第四、第五問題ノ決定ヲ見ス

第二問題戰爭ノ見透シニ就テハ第一段戰ハ勝ツモ敵ヲ屈伏セ

シムル方法如何トノ問答ニ於テハ左ノ如キコトアリ 武力ノ

ミニテハ之ヲ許サス外交ニヨルヲ要ス又英カ屈伏セル後ニ英

ノ艦隊カ極東ニ活躍スルコトナトハ出來ス又獨ノ力ハ借用ス

ヘク獨ノ國力ニ對スル信頼ハ之ヲ強ク考ヘアルモノ多シ
但獨ニ對スル帝國トノ協力ニ就テハ我施策カ獨ノ利害ニ大ナ
ル關係ヲ生シタル場合彼ノ出方ハ警戒ヲ要スヘク獨ハ信頼シ
難シトスルモノ多シ

十月二十七日(月)第六十二回連絡會議

再檢討ニ關スル件

午後二時開始午後六時廿分終了

一、第五問題「主要物資ノ需給見込如何」

賀屋 南方作戰ノ場合國家需要物資ニ關シ左記承り度

ノ所要數量ヲ全部(軍、官、民)ヲ含メアリヤ、特ニ軍需

ハ數年先ヲ見透シタル數量ナリヤ

二右ニ對スル國家ノ供給力ヲ考ヘアリヤ(生産力「ストツ

ク」等ヲ含ム)